

## 「東アジアジュニアワークショップ 参加報告書」

京都大学文学部2回生 各務雄貴

フィールドワークについて、一日目は中国人移民の居住地に行き、その地域に関わりの深い方々から中国人移民の生活に関するお話を伺い、中国人移民が韓国社会に溶け込めるように情報提供をはじめとして様々な形で援助活動を行っているということが理解できた。二日目は韓国社会についての講義後、戦争記念館と梨泰院に行った。講義ではセウォル号沈没事件を通じて韓国の社会構造を分析するという内容であったが、分析の仕方が多様で非常に面白かった。戦争記念館では古代から現代にいたるまで韓国が関わったあらゆる戦争についての展示がされていたが、展示の仕方や説明に韓国側の視点が汲み取れて、興味深かった。梨泰院では様々な国の文化が共存していてソウルの他の街とは一風変わった雰囲気味わうことができた。ムスリムの集住地域の近くにトランスジェンダーの人々が集まるクラブやバーが点在しているのがシニカルであり、まさに多文化共生を肌で感じることもできた。三日目はソウル歴史博物館と景福宮に行った。博物館では、時系列でソウルがどのように発展してきたのかが分かりやすく展示されており、その栄光を讃えていた。景福宮では壮大な宮廷文化とその雰囲気を味わうことができた。個人的にはずっと見たかった青瓦台を生で見ることができたのが感動的だった。三日間とも韓国と台湾の学生と一緒に食事をしながら語り合い、お互いの国について理解を深めることができた。

ワークショップは、三つの大学の学生がプレゼンをし、それについてディスカッションするという形で二日間行われた。私はオブザーバーとして参加した。全体を通しての率直な感想としては、テーマは多種多様で面白かったが、全体として何が言いたいのかよく分からないものが多かったように感じた。それは私の社会的な知見不足が原因かもしれないし、このジュニアワークショップの性質が原因かもしれない、はたまた本当に主張がまとまらなかったのかもしれない。理由は分からないが実際に私はそう感じた。また、私はこれまで社会学の講義を一度も受けたことがなかったが、社会学が扱うテーマの多様性に驚き、強い興味が湧いた。もう一つこのワークショップで感じたことは日本の学生とその他の大学の学生との歴然とした英語力の差である。特にソウル大学の学生の英語力の高さには本当に驚いた。それも聞くとソウル大学の学生はほとんどが学部の1・2年生だということなのでさらに驚き、凄まじい衝撃と敗北感に襲われた。彼らがどんな教育を受けてきてどれだけ勉強してきたのかは分からないが、同年代で当たり前のように流暢に英語を使う彼らを目の前にして、強い危機感を覚えたとともに非常に良い刺激を受けることができた。日本国外で起こっているこの事実に向かい、自らの在り方を根本から考え直さなければならないという気持ちになった。そう思っただけでこのワークショップに参加したことの意義は計り知れないほど大きいといえる。ワークショップに参加することを提案してくださった先生方、そして大きな刺激を与えてくれた他大学の学生には本当に感謝しています。ありがとうございました。